

成人期の再燃と IgE 高値を伴う全身症状に対して治療を続けた成人アトピーの経過 (47 歳 成人)

症例 ID : 001-40-MS

記録日 : 2015 年 12 月 24 日

1. 診断・治療前経過

成人期にアトピー性皮膚炎を発症し、皮膚科でステロイド外用薬やかゆみ止めを 1 年以上使用しましたが改善せず、脱ステロイド後に全身の赤み、浸出、体重減少を経験しました。

一度は落ち着いたものの、喘息治療や入院治療後に背中、胸、顔、左半身へ皮膚症状が再燃し、松本医院での治療を続けていました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	ステロイド外用薬、喘息用吸入薬、入院時の点滴薬などの使用歴があります。
製品名	フルタイドなど。外用薬・点滴薬の詳細は不明です。
強度	不明です。
使用期間	成人期に 1 年以上外用し、その後喘息治療でも使用歴があります。
中止時期	脱ステロイド治療時に外用を中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
発症後	外用治療	皮膚科でステロイド外用薬とかゆみ止めを使用しました。
脱ステロイド後	初回リバウンド	全身の赤み、浸出、落屑、5～6kg 程度の体重減少がみられました。
約 2 か月後	一時軽減	リバウンドは収まり、皮膚状態は改善しました。
その後 3 年目夏	再燃契機	肺炎・喘息で入院治療を受けた後、皮膚のかゆみが出始めました。
冬～年明け	強い再燃	顔や左半身にただれと体液が出る強い症状が現れました。
松本医院治療中	経過中	IgE は大きく上昇し、症状は残るものの以前より軽い状態で治療を継続していました。

4. ピーク時期

ピークは、脱ステロイド後の全身症状の時期と、再燃時に顔や左半身にただれと体液が出た時期です。

5. 困りごと

- 全身の浸出、落屑、体重減少を伴う時期がありました。
- 喘息症状と皮膚症状が重なり、治療継続が必要でした。
- 検査値の大きな変動に不安を抱えながら治療していました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



経過中の画像記録。



経過中の画像記録。

7. 経過のまとめ

再燃後も治療を継続し、記録時点では全身に赤みが残るものの、以前の強い時期よりは楽な状態となっていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。